

稲城市立病院

- いわゆる遷宮方式による、現在地全面改築案件 -

看護動線距離を大幅に縮減した三角形病棟

4床室と2床室を交互に組み合わせることにより、病棟廊下全長を大幅に縮減させた三角形病棟を実現し、結果として縮減された廊下面積を病室に充当する、という手法が本病棟計画の特徴といえる。コンパクトにまとまった三角形の重心に、2つのナースコーナーを包含するスタッフ・ステーションを配置することによる、「すべての病室への動線距離が縮減される」とことと「病棟の入口を管理しやすい」とことの両立も意図した。

2床室の再評価・活用

多床室においても「すべてのベッドに固有の窓を配する」という計画課題は、4床室だけではなく2床室でも実現させた。従来の並行配置型2床室は環境格差の面で問題を指摘されてきたが、外部との関係性の面で公平な環境を用意できれば、2床室を見直してもいいのではないかと考えたからである。

この2床室は、上記「コンパクトにまとまった三角形病棟」の構築に欠かせない要素となっているし、あわせて将来的な個室需要増への備えの面でも、「改修工事なしの個室率アップ(20% 40%)」というかたちで寄与できる。

公的病院としてわが国初の免震構造事例

平常時にかぎらず災害時においても、24時間診療を継続することが求められる医療施設における免震構造の有効性は、本計画以前から認識しており、実現の機会を模索し続けていた。実現にあたっては、我々の主張の骨格に理解を示し、採用に向けて意思統一に努力をされた市当局の英断が大きかったといえる。

(文責：川島浩孝)

医療福祉建築賞 1999/(社)日本医療福祉建築協会

日本免震構造協会作品賞(2000)/(社)日本免震構造協会

所在地	東京都稲城市
病床数	290床
構造規模	鉄筋コンクリート造(免震構造) 地下1階 地上6階 塔屋 1階
延床面積	18,518 m ²
竣工	1998.03